



「PBLプロジェクト」最終報告会で
優秀賞受賞の2チームが決定

「摂大ブランド商品の企画・開発
プロジェクト」の代表メンバー

「伝えよう、星の神秘と科学」の
代表メンバー

あ

や

け

き

2019 MAR
No.10

摂南大学広報誌

特集

- 摂南大学のPBLプロジェクト……………P.02
- 就カツ
 - 「就カツ」保護者セミナー開催 ……………P.15
 - 就職内定者インタビュー ……………P.16

**No.2 寝屋川市における環境学習支援と
淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト**

Pick up

環境について考え、学ぶ機会を創出

池の里交流センターで、市民ボランティア団体と連携し小学生を対象とする環境学習を支援。企画・実施担当として、月見団子作りやジャガイモ掘り・シチュー作りなどを実施しました。また、淀川水系で活動するさまざまな河川団体と協働し、水没した天若集落を知ってもらおうと、家屋があった水面に光を灯すイベント「天若湖アートプロジェクト」を行いました。



Pick up



No.10 イオンモール四條畷協同プロジェクト

子どもたちが楽しく経済を学べる企画を実施

イオンモール四條畷（大阪府四條畷市）、成美小学校区地域協働協議会青少年部会と連携して、イオンモール四條畷、本学を会場に、小学生が経済を体験的に学べるプログラムを企画・実施しました。

「こども経済セミナー『お金とけいざい』わくわく探検隊」では、経済波及効果についてのフィールドワークを実施。大学見学会やゲームを通してハロウィンの起源などを楽しく学べるイベントも行いました。



PBLとは？

Project Based Learning=プロジェクト体験型学習のことで、文部科学省が進める「アクティブ・ラーニング」に沿った学習方法として注目を集めています。

「摂南大学PBLプロジェクト」とは？

本学の教育理念「自ら課題を発見し、解決できる知的専門職業人の育成」を実践するためのプログラム。2018年度で9年目となる本学の特色ある取り組みです。

文部科学省採択プログラム

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムの採択を受け、2010年度から本格始動。

授業の特徴は？

学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学び。

どのような力が身につくのか？

トライアル&エラーを重ねながら、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会人基礎力を培います。

最終報告会を実施！

昨年12月26日、1年間の成果を発表する最終報告会を実施。審査により、「伝えよう、星の神秘と科学（ No.6）」と「摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト（ No.7）」の2チームが優秀賞を受賞しました。

※表紙の学生は優秀賞を受賞した2チームのメンバーです。



第1回投影会
「七夕・夏の星座」



参加した交野市の
小学生からの手紙

操作方法を何度も練習し投影会に臨みました

2018年度 PBLプロジェクトテーマ一覧

No	テーマ	履修者数 計295人
コア・プロジェクト		
1	過疎地域における地域資源活用プロジェクト	20
 2	寝屋川市における環境学習支援と 淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト	11
3	すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト	11
4	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から 地域を総合的に活性化させる～	55
5	由良町における地域ブランド開発プロジェクト	15
単年度プロジェクト		
 6	伝えよう、星の神秘と科学 - 理科教育のための「星の町☆かたの」 プラネタリウム復活を目指して -	15
 7	摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト	19
8	ミニ鉄道プロジェクト	16
9	交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～	54
 10	イオンモール四條畷協同プロジェクト	38
11	大学ラグビーマーケティングプロジェクト	15
12	中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト	5
13	社会人サッカークラブ「FC TIAMO枚方」 マーケティングプロジェクト	11
14	地域の高齢者・児童への支援活動	10

 優秀賞受賞プロジェクト

 Pick up プロジェクト



摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト

No.7

特産品を使った独自性のある商品を企画・開発

「摂南大学といえば〇〇」といわれるオリジナル商品を目指し、新たな商品を立案する企画グループと、このプロジェクトで提案した昨年度の企画を商品化する開発グループに分かれて活動しています。

企画グループは、寝屋川の特産品を活かした「シソを使ったおいしいもので寝屋川市を活性化」「紫蘇消臭シート」「シソとミカンの入浴剤」「みかんの皮を混ぜた燻製材」を企画。売上・利益を算出し、具体的な

ビジネスプランとして立案しました。開発グループは、3商品の開発に取り組みました。その中の一つ、「サツマイモとみかんピールのお酒」は、寝屋観光農園、八木酒造、ゆらみかん普及会の協力のもと、試行錯誤の末、焼酎にみかんの皮を入れて蒸留することで、ほんのりみかんの香りのする焼酎が完成。寝屋川市の酒店や大学の関連施設での販売に向けた取り組みも進んでいます。

このプロジェクトプランを



ワガヤネガワ・ベンチャービジネスコンテスト2018

に応募しました
(寝屋川市産業振興室主催)

グランプリ&部門賞を受賞!



協働部門賞

「サツマイモとみかんピールのお酒」が協働部門賞を経て、見事グランプリに輝きました。



商業部門賞

「シソを使ったおいしいもので寝屋川市を活性化」

農業部門賞

「シソとミカンの入浴剤」



特集

地域と協働し、多彩でユニークなテーマに取り組む

摂南大学のPBLプロジェクト

2010年度から本格始動したPBLプロジェクト。今年度は、295人が14のプロジェクトに取り組みました。最終報告会で優秀賞を受賞した2チームと、その他注目の2チームの活動を紹介します。



No.6

伝えよう、星の神秘と科学
—理科教育のための「星の町☆かたの」プラネタリウム復活を目指して—
投影会を企画・実施し、地域にノウハウを残す



10年間稼働していなかった、いわふね自然の森スポーツ・文化センター(大阪府交野市)のプラネタリウムを活用し、2年間を通して交野市の子どもたちに向けた自然科学の楽しさを伝える参加型のプログラムを企画・実施するプロジェクトです(履修は1年単位)。

西はりま天文台(兵庫県佐用町)で研修を行い、星に関する知識向上を図るとともに、解説方法も研究しました。この成果を活かし、子どもたちが自分で星を探せるように、星の見つけ方の説明方法に工夫を凝ら

し、星の動きや星座、星にまつわる神話、クイズなどを交えたプログラムを企画。プラネタリウムの操作方法も習得し、学生自ら操作しながら解説を行いました。投影会は季節に応じたテーマで合計5回実施、参加した子どもたちから好評を得ました。

活動の成果を交野市教育委員会に残し活用してもらうことを最終目標とし、引き続きプラネタリウムの操作マニュアルと小中学生向けプログラムの作成に取り組んでいます。

学長挨拶



学長 八木 紀一郎
Yagi Kiichiro

昨年、日本各地で地震・酷暑・台風・豪雨などの厄災が相次ぎました。本学も地震などで授業ができない日がありましたが、施設の被害は軽微で、ほとんど影響を受けることなく、大学の責務を十分に果たすことができました。学生・保護者をはじめ教職員や学外関係者など多くの方々のご協力とご理解に感謝します。大学としても「安全・安心」と「迅速な対応」の重要性を痛感させられた年でした。

昨年、日本各地で地震・酷暑・台風・豪雨などの厄災が相次ぎました。本学も地震などで授業ができない日がありましたが、施設の被害は軽微で、ほとんど影響を受けることなく、大学の責務を十分に果たすことができました。学生・保護者をはじめ教職員や学外関係者など多くの方々のご協力とご理解に感謝します。大学としても「安全・安心」と「迅速な対応」の重要性を痛感させられた年でした。

本学の入学と卒業・就職の状況を見ると、好調に推移しています。2019年度入試の本学志願者は、延べ数、実数ともに昨年度の人数を更新し、過去最高となりました。また本年度の卒業予定者の就職率も昨年度同様に高い数値となっています。入試では大学間競争、就職では新卒労働市場の状態にも影響されますが、本学および本学の学生に対する評価が高まっていることの表れでしょう。

本学は「現場で活躍できる専門職業人を育成する」という「建学の精神」に基づき、インターンシップやPBL(課題解決型学習)にいち早く取り組んできました。全学的な「教育改革」の柱の一つとして、2016年度から、アクティブ・ラーニングを中心にした「ソーシャルイノベーション副専攻課程」をスタートさせています。昨年12月にはPBLプロジェクトの最終報告会とともに、この副専攻第1期生(3年次生)

の発表会がありました。そこでは現場の人たちと協働を図りながら困難を乗り越えた経験が語られ、現地での生きた課題に対する認識の深まりが示されていました。発表を聴いた私も学生たちの成長ぶりに驚かされました。

各学部もそれぞれに教育改革に努力しています。これらの学部における能動的・主体的学習の成果も、学内外に見えるものになりたいと思います。

教育改革の環として、2018年度には「教育イノベーションセンター」を設置しました。同センターは、学内外での研修・研究会を何度も開催し活発に活動しています。2015年度に設置した「IRセンター」も、教学関連のデータの分析結果を共有する活動を通して学内連携を図っています。私は、新しい年度の教育方針として、「エビデンスに基づいて教育の質保証に取り組む」を掲げています。教育改革においては、教員・学生双方に存在する、根拠のない思い込みや安易な自己評価を脱して、適切な方策を取ることが必要だからです。その際の基準は、学生に基礎力をつけさせ、創造的・主体的な学習を実現することです。

最後になりましたが、新年度には、2020年4月に開設予定の農学部設置に向けた準備が本格化し、来春には、枚方キャンパスにその学舎が加わります。寝屋川キャンパスでは、東側土地取得の利用も含めたキャンパス再開発がスタートします。進展する教育改革とともに、組織や施設というハード面でも、本学は大きく変わろうとしています。引き続きご支援とご理解をお願いします。

index

特集

- 「就カツ」保護者セミナー開催 15
- 就職内定者インタビュー 16
- 保護者のための教育懇談会 18
- 奨学金説明会日程 19

特集

- 02 摂南大学のPBLプロジェクト
- 04 学長挨拶
- 05 摂南大学の特色ある取り組み
- 06 交流事業 地域交流
- 07 国際交流
- 08 学生生活
- 08 環境保全
- 09 2020年4月農学部開設

- 10 学部 Topics
- 10 法学部・外国語学部
- 11 経済学部・経営学部
- 12 理工学部
- 13 薬学部・看護学部
- 14 情報教育支援・研究支援
- 14 就カツ

守口門真商工会議所青年部との合同定例会の様子



「鳥人間コンテストプロジェクト」始動！ 機械工学科と守口門真商工会議所青年部のコラボ

機械工学科の学生が昨年10月、守口門真商工会議所青年部とのコラボによる「鳥人間コンテストプロジェクト」をスタートさせました。機体の名前も「さやけき☆みらい号」に決まり、大空を飛ぶ夢を叶えようと日々努力を続ける学生たち。この夏の大会出場を目指して頑張っています！



摂南大学の特色ある取り組み

交流事業

地域交流

J A北河内と 包括連携協定を締結

Exchange Program

昨年12月19日、枚方キャンパスでJ A北河内(大阪府枚方市)との包括連携協定締結式を行いました。本協定は、本学とJ A北河内との知的・人的・物的資源を活用して有機的な連携を図り、人材育成およびJ A北河内管内地区における農業の振興に寄与することを目的に締結するものです。

2020年4月には、枚方キャンパスに農学部設置を構想する本学は、本協定により農産物の品種改良や栽培技術などの生産技術で協力するほか、農業まつりなどのイベントへの参画、営農センターや農家での見学・実習などを想定しています。

締結式終了後に
記念撮影
八木学長(中央左)
東坂浩一
大東市長(同右)



「大東市と摂南大学との まちづくり連携協定」 締結式を実施

本学と大東市は1月21日、同市役所で「大東市と摂南大学とのまちづくり連携協定」締結式を行いました。

本学はすでに今年度の授業科目「地域貢献実践演習」で同市における活動を実施しています。今年度は大東公民連携まちづくり事業(株)の住道駅前デッキにおけるナイトマーケットの運営に学生が関わっており、本協定により、まちづくりに関する共同研究や事業の実施、人材の育成などがさらに期待されます。

神戸南京町で 東日本大震災 復興支援イベントを 開催

「気仙沼出張屋台村@南京町広場」
学生の企画で実現

本学は阪神・淡路大震災記念日の1月17日と18日、復興庁などの後援のもと、神戸市・南京町広場で東日本大震災復興支援イベント「食べる！遊ぶ！復興支援する!! 気仙沼出張屋台村@南京町広場」を初開催しました。このイベントは経済学科の植杉大教授のゼミ生4人が中心となって企画、運営を行い、2日間で50人の学生が調理や物販販売などに協力しました。2017年3月に閉村した宮城県気仙沼市の「復興屋台村気仙沼横丁」を南京町広場で復活させ、気仙沼の観光や特産品、復興の歴史と南京町の魅力を同時に発信する「新しい復興支援のカタチ」を実現し、多くの方が来場しました。



オープニングセレモニーで
テーブルカットを行う八木学長
(左から2人目)と
実行委員長の森俊人さん
(経済学科4年次。同3人目)



学生が気仙沼名物の
料理を販売
気仙沼と神戸の
地酒をアピール



2日間限定で神戸の街に姿を現した出張屋台村には、名物メカジキのハモニカ煮やホルモン焼きなど気仙沼の郷土料理や気仙沼と神戸の地酒飲み比べを提供する「飲食ブース」、ふかひれスープやサンマなどの気仙沼の特産品を販売する「物販ブース」、震災関連資料の展示やサメの歯キーホルダー作り体験、観光パンフレットが閲覧できる「歴史・観光ブース」を設置。このほか、東日本大震災を経験した尾形幹男氏による語り部講話も行われました。

また、南京町内の飲食店・6店舗の協力による気仙沼名物のメカジキを使ったコラボ料理も販売しました。



サメに扮して
呼び掛ける
高野凌嗣さん
(経済学科4年次)

手を
握る
協定
理事
組
長
福
義
組
長
木
中
水
木
組
長
八
木
学
長
と
代
表
組
長
森
俊
人
さん
(左)



中国雲南農業大学と 学術交流に関する 協定を締結

昨年10月12日、中国の雲南農業大学と学術交流に関する協定を締結しました。農業に関して多方面での研究実績を持つ同大学は、2020年4月開設を目指し設置構想中の本学農学部の実習受け入れ先として予定しており、グローバルな視点で農学的知見を養う学びの提供が期待されます。

海外で学び、 自分を大きく成長させる 海外留学

学生時代は、長いようでも就職活動や卒業研究・卒業論文などで奔走する時間も多く、意外と短いもの。就職してからは、長期休暇が取りづらく、海外体験や留学をする機会はありません。だからこそ、海外に出て自分を磨く絶好の機会です。

海外へ飛び出すメリットは何でしょうか。「日本語が通じない状況に身を置くことで、自分から外国語で話さなければならず、生きた言語が学べる」「多様性や柔軟性を養える」「文化の違いを知り、人間的な幅が広がる」などさまざまです。

国際交流センターでは、各種交換留学や

マレーシアの小学校で
日本文化を紹介



語学研修、文化体験などの海外派遣プログラムを整備しています。多くの実績があり、本学が留学のための費用や準備に関するサポートをするので、安心して参加できます。海外での貴重な体験は、就職活動にも活かすことができます。

協定校との交換留学は、半年から1年の期間の実施で、海外留学先大学の学費が免除されます。夏や春の休暇中に短期で実施する、カナダ、台湾、韓国、タイ、インドネシア、マレーシア、メキシコ、フィリピン、サイパンなどへの語学研修・文化体験プログラムもあります。3月には、フィリピン英語研修、台湾中国語研修に多くの学生が参加しています。

カナダでの
語学研修で
修了証を手にする
学生たち



海外留学に関する疑問や悩みがあれば、本センターに相談してください。すぐに海外に行かなくても、学内にいる外国人留学生と触れ合えるイベントも紹介しています。

韓国の大学で
テコンドーを
体験



「教育イノベーションセンター」開設記念のフォーラムを開催

教育部教育イノベーションセンターは昨年11月10日、同センターの開設を記念する「教育イノベーションフォーラム ～アクティブ・ラーニング、その先へ～」をOITホール(大阪工業大学大宮キャンパス)で開催し、学園教職員など約250人が参加しました。

講師として登壇したのは、文部科学省参与(高大接続改革担当)などを務め、国の高等教育改革を第一線で推進する安西祐一郎氏。安西氏は「高大接続と大学改革:現状と展望」をテーマに、「大規模な教育の

変革が起こりつつある今、教育以外の分野にもアンテナを張り、イノベーションのあり方の変化に敏感になることが必要です」と述べました。講演後は、参加者から出た質問を中心に荻田喜代一副学長、石井三恵同センター長らとディスカッションを行いました。

同センターは本学の教育改革の中心を担う組織として昨年4月に開設。教育の質保証に向け、教員の能力向上や教育プログラムの開発などを支援する取り組みを進めています。

学生生活

大学祭にぎわう!!

学生と教職員の一大イベント第44回摂大祭を昨年10月6日～8日に寝屋川キャンパス、第7回摂友祭を10月7日に枚方キャンパスでそれぞれ開催しました。

摂大祭には3日間で約9500人、摂友祭には約1700人が来場。いずれも、学生、卒業生、保護者、教職員、地域の方々など、多数の来場者が集う活気に満ちた祭典となりました。

第44回摂大祭

テーマ「JACKPOT」

10月6日(土)～8日(月・祝)
in 寝屋川キャンパス



摂大祭では、恒例となった人気企画「Ms&Mr. UNIVERSITY of SETSUNAN COLLECTION (セツコリ)」を学生団体SGP (Setsunan Girls Press)協力のもと、屋外のメインステージで行いました。会場は出演者の応援に駆け付けた学生の熱気に包まれました。さらに、各課外活動団体が演奏や発表などで日頃の成果を披露したほか、PBL中間報告会、工夫を凝らした模擬店も多数出店するなど、大いに盛り上がりました。

チアリーディング部のパフォーマンスで来場者を笑顔に(摂大祭)



また、昨年度に引き続き「摂大エコ&スマート大作戦(エコスマ)」も展開しました。

本学が推進する持続可能な社会実現への取り組み「Smart Campus」の一環として、模擬店において商品をリサイクル食器で提供し、トレイ1万838枚分の廃棄物削減ができました。

特別講演会も同時開催。厚切りジェイソンさん(IT企業役員、お笑い芸人)が「WHY JAPANESE PEOPLE...なんてやりたいことをやらないの?」と掴み取るためには「(48のWHYに基づいて)」をテーマに、来場者へ「なぜ」と問いかけながら、熱いメッセージを届けました。

台風25号の影響により、初日は屋外で行う模擬店やステージ企画の内容に一部変更がありました。開催期間中のキャンパスは多くの来場者で賑わいました。

模擬店などが賑わいました!(摂友祭)



第7回摂友祭

テーマ「Lucky Seven Festival」

10月7日(日)
in 枚方キャンパス



摂友祭では、地域の保健所や連携病院の協力を得ながら、薬学部・看護学部を擁するキャンパスに相応しい「医療に特化した大学祭」が実現しました。

恒例の「健康フォーラム」をはじめ、「健康体操」・「高校生対象の「プレナース体験」を実施し、キッズコーナーも設置しました。

さらに、星ヶ丘医療センター(大阪府枚方市)のがんサポートチームを迎え、ハンドマツサージと緩和ケアに関する相談会を実施。約90人が来場しました。その他、茨木保健所による「薬物乱用防止啓発コーナー」、枚方市保健所協力のもとボランティア部じよいふるが実施した「H・V予防啓発活動」にも、昨年度を上回る約1700人の来場者がありました。

特設ブースには、2020年度開設予定の農学部が提携を予定している「類農園」による青果販売も実施しました。

ラグビー部が入替戦で勝利 Aリーグに復帰!



昨年12月9日、京都・宝が池公園球技場で行われた関西大学ラグビーA・Bリーグ入替戦で、本学ラグビー部(Bリーグ1位)が関西大(Aリーグ8位)に31-29で勝利し、1シーズンでAリーグへの復帰を果たしました。

31-29で見事勝利!



大学改革について講演する安西祐一郎氏

「全国大学ビブリオバトル」 地区決戦に5年連続出場！

図書館では2014年度から「全国大学ビブリオバトル」に積極的に参加しています。これは、発表者（パトラー）がお薦めの本を5分間で紹介し、観戦者が一番読みたくなった本を選びチャンプ本を決める「知的書評合戦」と呼ばれるものです。近年の活字離れ対策としても普及しており、中でも「全国大学ビブリオバトル」はその名の通り、全国の大学生たちが競う最も注目度の高い大会です。

2018年度は、「図書館学生サポーター」の小原悠輝さん（法律学科1年次）が予選会に参戦し、地区決戦（昨年11月23日開催）に勝ち進みました。これで本学は5年連続地区決戦出場となり、またその間には3度決勝戦（全国大会）進出を果たしています。小原さんは初参戦とは思えない堂々としたパフォーマンスを見せ、観戦者からの質疑応答においてもウィットに富んだ切り返しで会場を楽しく盛り上げました。結果は地区決戦2位と惜しくも全国大会出場を逃しましたが、次回の活躍を大いに期待させる戦いぶりです。小原さんにとって自信と手応えを得る良い経験となりました。

地区決戦での小原さん



寝屋川キャンパスで防災訓練を実施

昨年11月6日、寝屋川キャンパスで本学学生・教職員・枚方寝屋川消防組合関係者など約300人を対象にした防災訓練を実施しました。

12号館北側にある高圧ガスボンベの爆発により建物の一部倒壊や火災が発生した想定で行い、避難誘導・通報・消火の総合訓練、トリアージ、負傷者の搬送や救護訓練を含む集団災害対応訓練を実施。このほか、学生らは訓練活動の一環として地震車に乗り、実際の地震による震度体験を行いました。訓練終了後、岡田光司寝屋川消防署長から「日頃からあらゆる災害の想定をしながら、安全で災害に強い大学になってほしい」と講評がありました。



Environmental Protection

環境保全

寝屋川キャンパスに エコペットボトルツリーが 点灯

昨年12月3日、寝屋川キャンパスに、ペットボトルで作ったクリスマスツリー3体が点灯しました。これは、学内の環境改善に取り組んでいるキャンパス・クリーン・サポーター（CCS）学内の環境改善に取り組む学生のボランティア（団体）が、環境への取り組みに関する理解促進を目的として一昨年から行っているイベントです。使用済みのペットボトル約2000本を使用してツリーを組み立て、16色に変化する電飾には消費電力を抑えたLEDを使用しました。12月10日には中庭にもペットボトルツリーを3体立て、夜のキャンパスを明るく照らしました。



ISO14001 定期審査に合格

昨年12月3日・4日の2日間、ISO14001の定期審査が実施されました。定期審査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格要求事項を継続して満たしていることおよびその有効性を審査するものです。

今回は認証機関を変更し、新たな認証機関での審査となりました。審査対象となった部門において改善指摘事項はなく、適正にシステムが運用・維持されていることが確認され、合格となりました。

審査に当たっては、課外活動団体エコシビル部やCCSが行った取り組みや、摂大祭での「摂大エコ&スマート大作戦」などの学生主体の活動学部での環境教育による学生の環境マインド育成、国際交流センターでの留学生に対する環境教育実施などが高く評価されました。他にも多くの環境に関する研究や学内でのさまざまな取り組みの継続が期待されています。

これまでの認証機関とは異なる視点での審査を通して、課題や新たな気付きも多くなりました。本学では今回の評価結果を踏まえて、今後の環境マネジメントシステム運用に活かし取り組んでいきます。

2020年4月 農学部 開設 〔設置 構想中〕



農業生産学科



応用生物科学科



食品栄養学科



食農ビジネス学科



※学部・学科の名称等は変更になる場合があります。

大阪から未来展開へ 農村・都市、地域・世界が、私たちのフィールド

摂南大学農学部は、食と農に関わる一連のプロセスを体系的に学び、広い視野と実践的な知識・技能を身につける教育・研究を行っていきます。

各学科の専門領域を深く学ぶとともに、全ての学科において、「農業生産」「環境・生態系」「バイオ技術」「産業創生」「食の安全・安心」「医療・健康」「国際協力支援」「豊かな持続可能社会」などの幅広い農学の知識・技能を身につけます。

3つのポイント

1 都市圏で学べる農学部

大阪府内で唯一の農学部です。大阪と京都の中間に位置する枚方キャンパスは、京阪神を中心に近畿一円からの通学や学外実習に便利です。生産・加工・流通・販売・消費といった食農ビジネスの一連の流れを実際に現場で体験しながら学ぶことができます。

2 食農・バイオ技術のイノベーション創出

本学理工学部、大阪工業大学(同一学校法人)の情報科学部やロボティクス&デザイン工学部などと連携しAIやICT、IoT技術を活用した先端農業分野の研究に取り組みます。また、企業との共同研究を通して、新たな機能性食品・加工食品の開発およびゲノム編集などの先端技術を活用したバイオの研究も展開します。食農ビジネス分野の専門家も含めた、経験豊富な専任教員が本学の特長でもあるきめ細かい教育・研究を進めていきます。

3 薬学部・看護学部との連携教育・研究

農学部を設置する枚方キャンパスは、既設の薬学部・看護学部と教育・研究で連携し、ライフサイエンスキャンパスとして展開します。医療系学部との「食・バイオ・栄養・医療・健康」に関する合同授業や共同研究を通して、広い視野と実践力のある人材を育成します。

枚方キャンパスは、農学部開設に向けて、8号館(約18,000㎡、テニスコート70面分)や農場、実習室および分析機器など、最新の施設や機器備品を整備。ラーニング・commonsや食堂、体育館やグラウンドの新設、書籍所蔵数の大幅増など、キャンパスライフを快適にする環境も同時に整備します。

摂南大学農学部の詳細はホームページをご覧ください

<https://www.setsunan.ac.jp/nogaku/>



豊かな社会

食の安全・安心

生物科学

生産・環境

農学部棟(8号館)完成予想イメージ





法学部



実務家による 特別講演会を1月連続開催

法学部は1月、元裁判官や民間企業代表など実務家による特別講演会を2回にわたって開催しました。

8日の「環境法」の授業に、水俣病関西訴訟大阪高裁判決(2001年)当時の裁判長と右陪席裁判官だった岡部崇明氏(元本学教授と古川行男教授をゲストに招き、浮田徹准教授が聞き手を務めました。18日の「地域防犯政策」(中沼丈晃准教授)では、お好み焼き専門店「千房」会長で、少年院や刑務所から社会復帰する人に働く場と住居を提供する「職親プロジェクト」の発起人代表でもある中井政嗣氏に講演いただきました。

①環境教育特別講演会 「その時、裁判官が動いた」

熊本県水俣市のチッソ水俣工場からの排水に含まれていたメチル水銀を原因とする水俣病は、魚介類を通して熊本県、鹿児島県の住民に中毒症状をもたらしました。1956年に公式確認されたものの、その後の補償や救済をめぐる問題は現在も続いています。裁判を担当した岡部氏と古川氏は

「二万丁事件」といわれる膨大な記録から因果関係を調べ、水俣病について国と熊本県の責任を初めて認めるとともに、従来の国の基準よりも広くメチル水銀中毒症状を認めました。「政治的な圧力はなかったのか」などの質問に対する両氏からの「広範囲に深刻な健康被害が出続けている状況を見過ごさず、それまで蓄積された調査記録の事実に基づき判断しただけ」との答えに、難しい局面での冷静な判断の重要性を学びました。



②社会復帰支援特別講演会 「できるやんか！人間って 欠けているから伸びるんや」

中井氏は「千房」を創業し、店舗を全国区に発展させるまで、経営面で特に心掛けてきたこととして、接客では「眼聴耳視(目で聞き、耳で見る)」、従業員教育では「共育」などの考えを説きました。また、「職親プロジェクト」を始めた動機として「いろんな人にお世話になったお陰で今の自分があるのだから、世間に恩返ししたかった」と述べ、「受刑者の受け入れ先は『社会』だ。千房で受け入れていることを

内外にオープンにすれば社会全体に同志が増える」と力説。最後に「未来が変われば、過去も変わる」と熱いメッセージを贈りました。



外国語学部



学部内で各種コンテストを開催

学部内で漢字コンテスト(昨年9月)、各専攻言語によるスピーチコンテスト(10月、11月)を開催しました。



学外のコンテスト 全ての専攻言語で優秀な成績

●Marveリーダー読書コンテスト
主催：ピアン・ジャパン株式会社
英語によるプレゼンテーション部門
「優秀校賞」受賞(昨年10月)
池上和也さん・茅本秀一さん・岸谷倫子さん・高木 凜太さん・藤田梨瑚さん・宮崎梨子さん(全て3年次)



●第36回全日本中国語スピーチコンテスト
大阪府大会
主催：NPO法人大阪府日本中国友好協会
朗読の部「特別賞」受賞(昨年10月)
濱田紫音さん(1年次)



●第90回スペイン語技能検定5級
(公益財団法人日本スペイン協会、後援：文部科学省)
全国最優秀成績により「スペイン大使賞」受賞
昨年10月
石山勇さん(2年次)



●第11回インドネシア語スピーチコンテスト

主催：南山大学外国語学部アジア学科/国際教養学部
国際教養学科インドネシア学生会名古屋支部
後援：在日インドネシア共和国大使館
(昨年11月)
「スピーチの部」第1位
両部門で総合優勝
浅生佳奈子さん(3年次)
「歌唱の部」第2位
甲斐 絢渚さん(2年次)
「スピーチの部」第3位
妹尾南さん(3年次)



国際教養セミナー、 英語教育フォーラム開催



昨年10月に、学内外からたくさんの方の参加者を迎え、国際教養セミナー「呪術とまじない」(講師：赤澤春彦准教授、小川豊生教授)、11月に英語教育フォーラム「奏(てる)のための音楽と「ト」バ Music and Language as Motor Skills」(講師：Akira TANAKA)を開催しました。

訪問団や留学生と交流

昨年10月にインドネシアの中学生を、インドネシア語で歓迎しました。11月には寝屋川市の姉妹都市であるアメリカ・ニューポートニューズ市からの訪問団が来校しました。学生たちは英語による「コミュニケーション」を駆使しながらも短時間のうちに打ち解けていました。中国語専攻では留学生や中国語ネイティブ教員と水餃子を皮から作る交流企画を開催。食を通して文化を学びました。



職場見学会と就職セミナー

就職に対する考え方は、働く人に直接会って話をすることでより深まります。昨年11月に、関西国際空港で職場見学会を開催。卒業生たちも働く現場を学ぶ体験となりました。また就職セミナーでは外部講師の講演に続き、就職活動を終えた4年次生が体験談を発表し、キャリアに対する意識を高めました。



関西国際空港での職場見学会

経済学部

オリックス・バファローズ主催 「マーケティングプレゼン」で発表

昨年11月17日、郭進准教授ゼミの熊本雄基さん(3年次)、合澤完治さん(2年次)、宮崎慶太さん(2年次)の3人がオリックス・バファローズが主催する「マーケティングプレゼンテーション」で発表を行いました。これは、同球団と連携している6大学(摂南大・関西大・大阪商業大・阪南大・大阪体育大・天理大)が、球団や自治体関係者に対し、球場観戦などの戦略立案に関する提案を行うものです。

本学が発表したテーマは、「プロ野球観戦者の集客戦略—観戦動機と満足度の角度から—」です。近年、オリックス・バファローズの観客動員数が伸び悩んでいる現状を背景に、学生たちは観戦客がなぜ球場に来たのか、試合の観戦に満足しているかなどの調査を行い、プロ野球の観戦回数に与える要因について分析結果を発表しました。



ゼミ対抗 プレゼンテーション大会

1月12日、「ゼミ対抗プレゼンテーション大会(1年次〜3年次対象)」を開催しました。



デザイン関係の産業の見学やヒアリングなどのフィールドワークを行いました。

TOPICS

イタリア海外研修を実施

2月11日〜17日の7日間、イタリアのミラノ市で地域経済実践演習を実施しました。学部生9人が参加し、後藤和子教授と原田裕治准教授の引率のもと、イタリアの経済と文化を学びました。午前中は、本学協定校のIULM大学で講義を受講。現地学生と交流を深めたほか、午後からはミラノ市内の食、ファッション、

卒業研究論文発表会

今年度は計27チームが参加し、3会場に分かれて1年間学習した研究成果をリレー形式で発表しました。テーマは、地域経済循環や地方創生、観光産業の行方、さらには日本企業の海外進出に関するものまで多岐にわたりました。学生らにとっては、日頃の学習成果を人前で発表するいつもと違った緊張感を味わいながら、今後の専門学習への意欲を高める機会となりました。



経営学部

海外ビジネスインターシッピング in Bali

昨年9月1日〜12日にかけてインドネシア・バリ島での海外ビジネスインターシッピングを実施しました。今年度は2〜4年次生15人が参加し、企業での就業体験や、現地の高校と大学での授業体験を行いました。



サラスワティ大学での合同国際交流会

旅行会社「パラダイス・バリ」では、同社のメイン業務である予約システムを体験。その後、学生が業務の改善ポイントについて企画提案を行いました。

国立ウブド第一高校では、日本語と英語で日本の文化を紹介。また、マイクロプラスチック問題について解説したほか、日本から風呂敷を持参し、使い方を紹介しました。交流会では、たこ焼きの試食や茶道のデモンストラーションなどを行い、現地の高校生に好評を得ました。



サラスワティ大学では、9カ国の学生が集う合同国際交流会に参加し、現地の大学生が関心を持っている日本のアニメや音楽、茶道を紹介。また、同大学の学生と一緒にマングローブの植樹とビーチの清掃を行いました。

IoT時代に役立つ 新しい経営学を学ぶ

今回参加した学生は、いずれのプログラムも緊張しながらも熱心に取り組み、現地学生とも積極的に交流していました。今回の体験は、参加学生にとって、海外に目を向ける良いきっかけとなりました。

これからの社会はモノとモノとがつながるIoT (Internet of Things) 時代になり、情報技術がより深く生活に浸透していきます。このIoTを企業経営や社会で効果的に利用していくための新しい授業として、「IoT時代の経営情報学」情報社会における『まち』『学校』『企業』『安全』を実現する新しい経営への挑戦(「経営学特講」)を開講しています。

この授業は、公益財団法人電気通信普及財団の特別講義開設援助を受けて実現した講座で、毎回ゲストスピーカーを招待して行っています。ゲストは、企業や自治体のトップをはじめ、IoTやIT、情報セキュリティ分野で活躍している方々です。講義ではIoTを駆使した教育環境の進展や、情報化による地域活性化、サイバーセキュリティの現状など、最新のIoT利用や実践的な経営での工夫に関する話題が提供されています。

受講した学生からは「IoTのすごさを実感した」「リーダーの話聞いて経営学をもっと勉強したくなった」「毎年このような授業を受けたい」などの感想があり、この授業をきっかけに、経営学の深い学びにつながっています。



経営学特講の1コマ(吹田市市長 後藤圭二氏)

理工学部

キャンパスから飛び出す！
多彩な学外活動と発信イベント

住環境デザイン学科

昨年5月、新入生を対象に岡山県で学外研修を実施しました。真庭市の環境配慮建築について設計者である本学科の非常勤講師中村文紀氏（東畑建築事務所フェロー）から直接説明を受け、倉敷の街並みを調査・見学しました。8月と9月には、大学院生と3年次生が、海を越えてタイやベトナムへ。水上集落の調査や病院の子どもたちの遊具をデザインするなど、専門性を活かして貢献しました。10月には、2年次生が「関西デザイン学生シンポジウム」で作品を展示・発表し、見事「優秀賞」を獲得しました。年間を通じて開催する建築設備の見学会では、最先端の環境工学をリアルに学びました。11月と12月には、「住環境デザインフォーラム」を連続開催。映画「人生フルーツ」の上映と、あべのハルカス関係者による講演のほか、本学科の教育・研究内容を社会に発信しました。2月には、「卒業研究発表展」を関西建築・デザイン界の中心地、本町ガーデンシティで開催しました。



来場者が500人を超えた
第6回卒業研究発表展



詳しくは、随時更新している
住環境デザイン学科
オリジナルサイトをご覧ください
<https://www.setsunan.ac.jp/led/>



住環境デザインフォーラムの
開催ポスター

6年ぶりの
日本技術者認定機構(JABEE)の
受審
建築学科

建築学科の総合
コースは日本技術者
認定機構(JABEE)
の認定を受けていま
す。認定を受けるため
には審査を経て、その
結果により、3年間も
しくは6年間の有効期間を与えられます。前回の
審査時に高い評価を得たため、今年度は6年
ぶりの受審となりました。



実地審査時の8号館廊下の展示風景

審査では、「社会のニーズに即した目標を有する教育プログラムであるか」「運用が適切か」「コース卒業生が認定技術者に足る人材であるか」などが評価されます。3日間の実地審査では、資料の確認や面接があり、受審会場となった8号館の廊下を学生の作品や活動を発表する場として、建築学科学生の「頑張り」も展示しました。審査の結果、前回に増して高い評価を受けました。審査対象外である建築デザインコース・建築工学コースでも同レベルの教育プログラムを提供している点も高評価を得ました。

◆ 現場見学会開催 ◆

1年次	1班	・人と防災未来センター 【震災追体験、防災・減災の学習】
	2班	・琵琶湖疏水記念館 【疏水の歴史・役割、現在の水道事業】
3年次	1班	・天ヶ瀬ダム再開発事業 【洪水調整機能の強化、京都府の水道水の確保】
	2班	・NEXCO総研緑化技術センター 【緑化に関する研究開発等】
	3班	・阪神間都市計画整備事業園田西武庫線 【道路とJR線との立体交差工事】

天ヶ瀬ダム
再開発事業班



会場の様子

昨年10月10日、1年次生82人と3年次生54人を対象に土木構造物の維持管理に関する講演会と現場見学会を開催しました。講演会では、本学と包括協定を結んでいる大阪府都市整備部の協力を得て、都市基盤施設の現状や大阪府の取り組みと、土木構造物の維持管理について説明を聞きました。質疑応答時間には、多くの学生たちから質問があるなど積極的に参加する姿が見られました。参加した学生は、建設現場の魅力や社会に貢献する土木技術者の役割を肌で感じていました。

都市環境工学科

土木構造物の
維持管理に関する
講演会、
現場見学会

大阪府都市
整備部における
維持管理に関する
講座



「国際電波科学連合(URSI) 公開研究会」を開催 電気電子工学科

昨年10月12日、「国際電波科学連合(URSI) 公開研究会」が本学を会場にプチテアトルで開催されました。URSIは電波、電気通信および電子科学分野における研究の連絡と推進を図る唯一の国際学術団体で、日本学術会議電気電子工科学委員会URSI分科会の下に小委員会が設置されています。今回は「OAM※無線伝送」と題して、国内で活躍中の3人の研究者・技術者から、現在のスマートフォン(LTE)の約100倍という大容量の無線通信につながる最新の研究成果について講演がありました。

研究会には、学内外から多くの参加者が聴講に訪れ、活発な質疑がありました。本学の教員だけでなく本学学生も最新技術の知識を得るとともに、学外の方に本学を紹介する貴重な機会となりました。

(※)Orbital Angular Momentum(軌道角運動量の略で、この運動量を持つ電磁波は従来に比べて多くの情報を送ることができます。)

薬学部

薬学部の専門キャリア教育

薬学部では、学生の能力、適性や志望に応じて、主体的に進路を選択できるよう教職員はもちろん、包括協定を結ぶ病院や薬局にも協力を得て、きめ細かなキャリア支援を実施しています。

1・2年次ではキャリア意識を育み、3・4年次では医療機関でのインターンシップなどで薬剤師が活躍する業界について視野を広げます。4・5年次では、問題発見・解決型学習としてPBL形式の授業などに参加し、将来に向けて必要な知識や技能、態度を習得。現場体験を重視した支援プログラムで、自己分析から即戦力養成までを実現します。

2019年度から新たに「特定非営利活動法人 大阪共同治験ネットワーク」と連携し、治験コーディネーターの職種に関するキャリア教育を実施します。授業内容は、新薬開発に携わる治験コーディネーターについての業種の理解を目的に構成し、学生の就職活動における業界選択の視野拡大を目指します。

子ども大学探検隊を実施

昨年11月17日、本学が加盟する「学園都市ひらかた推進協議会」の事業である「子ども大学探検隊」を本学で初めて実施しました。

「キミはいくつ知ってる？植物の不思議」と題し、当日は、小学生



13人とその保護者が参加しました。ミラクルフルーツを使った味覚変化の体験や、ひまわりに隠されたフィボナッチ数列などについて、薬学部の教員や技師、学部生がレクチャーを行うと小学生からは驚きの声が上ががり、夢中になって取り組んでいました。



受賞者続出！ 学会発表で頑張る学生たち

薬学部の人材養成に関する目標は「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成すること」です。その目標を達成するには、自己研鑽に励み、授業・実習だけでなく、卒業研究にも取り組み、問題解決力を向上させることも不可欠です。その成果は、学会などでの受賞という成果として着実に表れています。

学会賞受賞者

第107回日本病理学会総会

「学部学生ポスター優秀賞」受賞

大嶋 成奈優さん（6年次）

山際 高史さん（6年次）

西村 浩平さん（6年次）

第3回日本薬学教育学会大会

「学生優秀発表賞」受賞

近藤 真奈実さん（6年次）

第2回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ

「ポスター発表優秀賞」受賞

谷口 勇気さん（6年次）

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2018

「優秀ポスター発表賞」受賞

橋本 優美さん（6年次）



看護学部

公開講座を開催

看護学研究科は、昨年11月17日に、近隣病院等実習先の看護職者および本学大学院生・学部生が将来の看護職者の責務を認識し、医療現場におけるコミュニケーションの重要性に気付くことを目的に公開講座を開催。学内外から約150人の参加がありました。

公開講座では、医療現場の行動経済学についての研究で活躍されている大阪大学大学院人間科学研究所の平井啓准教授が講演。「医療現場における行動変容のためのコミュニケーション」と題して、乳がん検診の受診を促す行動変容の具体的に取り組んだケースについて紹介がありました。

講演後の質疑応答では、学部生をはじめ参加者から積極的に質問が出るなど、時間を超過するほど白熱した討議が続ぎ、実りある公開講座となりました。



「女性のためのがん講習会」を実施

看護学部では、

昨年10月15日に枚方キャンパスで、大阪府との共催による「大学生だからこそ知っておきたい女性のためのがん講習会」を実施しました。この講習会は、大阪府が推進している府民の健康寿命の延伸に向けた市町村や民間企業等の連携・協働による「健康寿命

延伸プロジェクト」の環で、「健康キャンパス・プロジェクト」★摂南大学として実施。自分の健康状態に合った情報を見極め、最善の選択を行うことができる「ヘルスリテラシー」の向上を目的とし、学部生約40人が参加しました。

子宮頸がんセミナー講師（厚生労働省委託事業がん対策推進企業アクションアドバイザリーボードメンバー）の阿南里恵氏より、自身の経験からがん早期発見の重要性などについての講演がありました。参加学生からは「がん検診の重要性を改めて感じた」「将来看護師として患者をサポートするに当たって、勉強になった」などの声が聞かれました。

セミナー終了後は、婦人科検診車で20歳以上の女性を対象に、子宮頸がん無料検診を実施しました。



婦人科検診車で子宮頸がん検診を実施

Microsoft 製品のサポート期限にご注意ください

Microsoft Windows 7の製品サポートが2020年1月14日に終了します。皆さんがご自宅や研究室などで使用しているパソコンのOSがWindows 7の場合は、早めに移行計画を立てましょう。製品サポートが終了するとセキュリティ更新プログラムの提供が行われなくなり、セキュリティ上、大変危険な状態になります。この他、Office製品にもサポート期限があります。詳しくはMicrosoftのホームページを参照してください。

OSにはサポート期限があります!

<https://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/article/windows10-portal/eos.aspx>

ご存じですか? Officeにはサポート期限があります

<https://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/article/office2010/eos.aspx>

本学では情報教育施設を2020年4月に最新機器に更新する計画を進めています。ICTを活用した教育研究活動の向上にご期待ください。

情報教育 支援



情報メディアセンター

Microsoft Officeをバージョンアップします

2019年4月より、情報処理(演習)室、CALL教室、CAD演習室に導入しているMicrosoft OfficeをOffice 2016にバージョンアップします。主な新機能は以下の3点です。

- Word/Excel/PowerPointでの共同編集が可能
- 新しいヘルプ機能「テル・ミー」の追加
- Officeアプリでファイル共有相手の選択が可能

詳細は、情報メディアセンターホームページの「新着インフォメーション」を参照してください。

<https://www.setsunan.ac.jp/~center/>

ATR CALL BRIXをバージョンアップします



2019年3月より、ATR CALLをバージョン9.0にバージョンアップします。主な変更点は以下の3点です。

- スマートフォンから全課題の学習が可能
- TOEICの新形式問題に対応
- 英検対策として3レベル(準1級、2級、準2級)を追加導入

ATR CALLは、日本人が英語を学習するときの聞き取りや発音の学習メカニズム研究に基づいて開発された、英語の「音」に注目した英語学習eラーニングシステムです。「読む」「書く」「聞く」「話す」を効果的にバランスよく学習できるように学習課題を用意しています。

研究 支援



「第1回淀川水系の生態系サービス再構築シンポジウム」を開催

昨年12月22日、淀川水系研究センターは、寝屋川キャンパスプチテアトルで、「第1回淀川水系の生態系サービス再構築シンポジウム」を開催しました。これは、本学が今年度の私立大学研究ブランディング事業に申請した「淀川水系の生態系サービス再構築—社会連関ネットワーク拠点の形成—」に関連するもので、77人の参加がありました。

本学の研究者から2人が発表。建築学科の池内淳子教授による「なぜ摂南大学が淀川水系研究に取り組むのか—ブランディング事業への応募を通じて—」では、本学の成り立ちや淀川との関係性、淀川水系研究の概要や目標などの説明がありました。経済学科の後藤和子教授からは、「淀川水系に関する総合的研究—多様性に基づく発展的ダイナミズムの研究—」として、研究の目的、方法、成果などの発表がありました。

2人のゲストスピーカーによる講演では、神戸大学大学院経済学研究科教授の奥西孝至氏が、「淀川水系がもつ経済的役割の歴史の変遷—ヨーロッパとの比較の観点から—」をテーマに発表。水系における交通網の発達や、洪水と治水などの観点からの、淀川流域とヨーロッパのライン川とスヘルデル川が作る三角州の比較、ヨーロッパの大学による水系研究プロジェクトについて紹介がありました。続いて、法政大学江戸東京センター特任教授の陣内秀信氏による「川から見たヴェネツィアと本土との結びつき—舟運・筏流し、水車活用産業、飲料水の視点から—」では、イタリアのヴェネツィアの歴史や成り立ちから見えてくる河川の発展に伴う開発について説明がありました。

講演後の質疑応答では、本学の水系に関する研究者からだけでなく、一般参加者からも数多く質問があり、淀川やその研究についての関心の高さをうかがい知ることができました。



奥西孝至氏との
質疑応答

陣内秀信氏
による講義



特集：就カツ

「就カツ」保護者セミナー開催

昨年12月9日、OIT梅田タワー（大阪工業大学梅田キャンパス）で「就カツ」保護者セミナーを開催しました。就職活動環境の変化に対応し、保護者からの支援のあり方を知っていただくことを目的に毎年開催しており、今回は180人を超える保護者の方々の参加がありました。第1部では「家庭でできる就職支援」と題して大和ハウス工業(株)人事部次長の千原誠氏による講演を行い、第2部はグループに分かれて内定学生との懇話会を実施しました。



神田 耕吉 後援会長

第2部

「内定学生との懇話会」

保護者の皆さまからの質問に内定学生が就活最前線での生の声として回答しました。

※薬学部と看護学部の学生は国家試験直前時期でもあり参加協力が困難だったため、就職部職員が質疑に応じました。

協力してくれた内定学生 12人

- ・法学部法律学科 北本 美幸さん
- ・外国語学部外国語学科 橋本 悠馬さん
- ・経済学部経済学科 宇治川 慶亮さん
- ・経営学部経営情報学科 平井 里奈さん
- ・経営学部経営学科 川合 龍希さん
- ・理工学部建築学科 須山 慎也さん
- ・理工学部電気電子工学科 木村 紳太郎さん
- ・理工学部生命科学科 正木 里奈さん、中坪 栄治さん
- ・理工学部住環境デザイン学科 前田 遼介さん
- ・理工学部都市環境工学科 田中 奨真さん
- ・理工学部機械工学科 國光 優作さん

学生の就活体験談から

準備

- 3年次の夏頃、学外の大規模なインターンシップ説明会を経て、冬から実際に参加。希望業界の職種を知ること重点を置いた。
- 「父親と同じ業界に」とイメージしていたが、現実を知るため3年次の夏頃、数日間のインターンシップに参加。1月頃から志望企業を絞り、2月開催のインターンシップ参加で希望順位を決めた。
- 学科での勉強が楽しくてインターンシップに興味湧かず、解禁の3月1日からエントリーを開始。何を軸に就活すればいいかわからず、社名や事業を知っている企業から応募し始め、説明会などの体験を重ねた。

企業の絞り込み～自分の「軸」の探し方

- スケールの大きな建造物に携わりたいという思い。
- ゼミでの研究や、大学での学び、教授との相談から徐々に絞り込み。
- 社内の雰囲気の良いと、いろんな分野で活躍したいとの思いと、企業規模を意識。
- 説明会や選考を受けていく中で、その企業で働きたい気持ちが強くなった。

選考

- 3月からエントリーを開始するなど早期に始まる業界や職種もある。
- 1つの業界に絞って活動していたがうまくいかず、職種をキーにして別の業界に切り替え、内定につながった。
- 学業と就活との両立が大変だったが、その時取り組んでいた課題について自己PRをしたところ、採用担当者から評価を得られ自信につながった（理系学科）。

保護者へお願い

- 干渉され過ぎると逆効果。
- 何気ない気遣いがうれしい。落ち込んだときに母親がかけてくれた一言で立ち直れた。
- 金銭面でのサポートはとてもありがたい。東京本社選考もあり、一度に数万円の交通費が必要になることも。

参加した保護者からは、人事担当者の方の話を聞いて、異なる視点から就活を考えることができて良かった。日々のコミュニケーションを大切に、家族にしかできない支援をしたい。学生の生の声が聞けて参考になった、といった感想が多数ありました。

…就活ルール撤廃に関して／就職部から…

2021年3月卒業以降の学生については、「大学3年次の3月に説明会解禁、大学4年次の6月に採用面接など選考解禁」という現行ルールを撤廃する意向を日本経済団体連合会（以降、経団連）が発表しました。しかし、学業への影響などが懸念されるため、経団連に代わり政府が新たな就活のルールづくりを主導しています。大学の学事スケジュールは大きく変えられないこともあり、就職部では採用動向に注視しつつ、支援を行ってまいります。まずは大学での学修が最優先ですので、一時的な情報に左右されず、正確な情報に基づき冷静に対応していくよう指導してまいります。

第1部

「家庭でできる就職支援」

講師として、大和ハウス工業(株)人事部次長（採用・海外人事担当）千原誠氏をお招きして、国内最大級の市場規模を誇る建築業界から見た現在の就職環境や採用動向のほか、採用担当者の立場から、保護者の関わり方などについて講演いただきました。

講演の内容

家庭での支援

就活は大学受験と同じくナーバスになるもの。“あなたなら出来る”という後押しこそが家庭でできる大切な支援。日常の関わりの中で距離感を保ちながら“ナチュラルに”。

企業採用担当者としてのメッセージ

— キャリアをしっかりと考えないとこの先困る —

内定取得が就活の目的ではない。おもしろいと思える、やりがいを感じられる、もっと良くしたいと思って働けそうな一社を“選ぶ”就活が必要。その仕事の一番“しんどい”ところをしっかり押さえて、乗り越えられる能力や我慢強さがあるかを見極めよう。「したいこと・すべきこと・できること」が一番多く重なっている仕事を見つける。感性、人間力を高めることも大切な要素に。相手のニーズをうまくキャッチし、応えていく感性はビジネスでも活かしてくる。

キャリア形成に向けた3カ条

- ① 井の中の蛙にならない（消費者目線だけで仕事を捉えない見聞を広める）
- ② 思い立ったら即行動（競争社会ではスピード感が不可欠）
- ③ 今考えられる最大の自分の軸（基準）を見つける
（人との出会いや仕事の困難さなど、周りの条件は変化するため）

内定先

株式会社 近畿日本ツーリスト中国四国



経済学部 経済学科
木曾 友絵さん

海外で得た刺激と喜びを 仕事に生かしていきたい

高校時代にアメリカへの短期留学や海外旅行をきっかけに旅行業に興味を持つようになりました。大学に入学し、さらに多くの国や地域に旅行する経験をし、多様な人との温かい触れ合いの中で生き方が変わるほどの刺激を受けて、自分の世界が広がりました。そこで、「多くの方に海外や旅行の魅力を知ってもらって、旅行の計画のお手伝いをしたい」という思いが強くなり、旅行業界を目指すように。旅行会社の面接は第一志望だけに緊張しましたが、近畿日本ツーリストでは優しく穏やかな対応で緊張を和らげていただき、自分らしさを出すことができました。

就活中は、悩めば悩むほど家族や友だちに話にくいこともあり、私はよく就職部に相談に行きました。エントリーシートの添削を手伝っていただいたり、就職先の選択で悩んだ時には意見をいただいたり。納得のいく就職活動ができ、相談してよかったと思っています。旅行会社は選考時期が遅く、周り比べて焦る時期もありましたが、業種や企業によって就活のペースは人それぞれ。将来の理想像を大切に、自分のペースで就活に向かってほしいです。また、他社との比較を含めた企業研究などは、選考スケジュールが連日重なってくる前に行っておくと、面接で自信を持って受け答えができますよ。

内定先

イーザイ 株式会社



薬学部 薬学科
小西 寛子さん

革新的医薬品を通して 地域医療向上に貢献したい

5年次の5月から2カ月半行った病院実習で、実際に患者さまと接しました。そこで患者一人ひとりの、生活スタイルや価値観を理解した上で、適切な病気の知識や薬の情報を提供することがQOL向上に不可欠であることを実感。また、1つの薬によって症状が劇的に改善した事例に携わり、自らも「新薬を地域医療に普及させ、より多くの人の健康に貢献したい」という目標が明確になりました。イーザイを志望した理由も、「製薬」をゴールとするのではなく、患者に寄り添いベネフィット向上に取り組む「hhc(ヒューマン・ヘルスケア)理念」に共感したから。革新的医薬品の創出はもちろん、地域医療への働きかけや他職種との連携など多面的な取り組みが行われています。私も、MRとして一人ひとりに寄り添った治療提案を行うとともに、地域医療が持つ課題にも視野を広げ取り組んでいきたいと考えています。

就活で大切だと感じるのは、「自分が実現させたいこと」の明確化です。学内の就職セミナーや自己啓発セミナーでは、1年を通して多くの卒業生や他職種の方と交流し、視野を広げながら、自身の思いや強みを深く見つめて目標を定められました。目標が決まれば取るべき行動も明確になり、きっと納得のいく結果につなげることができると思います。

内定先

株式会社 池田泉州銀行



経営学部 経営情報学科
大田 真輝さん

諦めず、 努力を惜しまずチャレンジあるのみ!

3年次の6月に池田泉州銀行の支店へ訪問した際、応じていただいた方の人柄と創業支援の話が心に残り、志望のきっかけになりました。ところが、インターンシップは春、夏の2回とも不合格に。落ち込みましたが、諦めずに説明会や座談会に参加し続けました。他の銀行も受けながら銀行ごとの違いを分析。日経新聞で毎日関連記事をチェックし、疑問点は説明会などで積極的に質問しました。理解を深める中で、地域、法人向けの仕事を通して大阪の街とともに成長できることや、独立系銀行としての独自の取り組みに改めて魅力を感じ、志望の意思が高まりました。嬉しかったのが、人事の方がそんな私をずっと覚えておられて、座談会などでも熱心に対応してくださったことです。そのおかげもあり、3月からの個人面談では、毎回緊張せずに自分の思いを話すことができ、無事4年次の6月初旬に内定をいただきました。

お世話になった就職部では、当初あいまいだった私の就活の軸について話したところ、すごく情熱的に一緒になって考え、私の原点を掘り起こしていただきました。その結果、迷いや不安のない状態で選考に進めました。皆さんも、希望する企業が見つかったら、努力を惜しまずチャレンジし続けてください。諦めなければきっと道は開けるはずですよ!

内定先

関西医科大学附属病院



看護学部 看護学科
遠藤 茜さん

実習で温かい看護の 姿勢に感銘を受けて

学生生活で最も印象に残っているのは、看護の現場での実践を通して学ぶ臨地実習です。1年次から4年次までさまざまな病院での実習に参加し、目標にしたい看護師の方々とのお会いに恵まれました。そして、多くの患者さまを受け持ち、いろいろな考えの方にどう看護を提供するべきか悩んだこともありましたが、いずれも素晴らしい経験となりました。摂南大学の看護学部は先生との距離が近く、看護師・人生の先輩としての助言にも力づけられました。先生と共に実習を乗り越えた友人たちがいたからこそ、前向きに取り組め、学びに繋がったと思います。

関西医科大学附属病院も実習先の一つでした。「そばにいて安心していただける看護の提供」を大切にされていて、その看護への姿勢や指導の熱心さに感銘を受けました。学内でも説明会が開催され、実際に働いている卒業生の先輩方から、「将来、専門看護師・認定看護師などキャリアアップを目指す教育や環境が整っている」と聞いたことも、志望動機の一つとなりました。実習と並行しての就活は大変でしたが、内定をいただいた時の嬉しさは格別でした。また、実習先だったため、看護師としての未来の姿もイメージしやすかったです。就職先として魅力を感じた病院は、実習に行くことでさらに理解が深まると思います。

就職内定者 インタビュー

内定先

日本赤十字社



法学部 法律学科
四元 明日人さん

多くのことにトライできる 時間と環境を活かして

就活では物流・商社・メーカーなど一般企業も訪問しましたが、尊敬する祖父が国際協力に関連する仕事をしていて影響もあり、高校生の頃からずっと「世界中の苦しんでいる人たちに希望をもたらせる仕事がしたい」という思いがありました。就活の過程で自分の軸を何度も見つめ直したことで、「国際社会をフィールドに、特に医療格差など目の前にある問題に関わる人道支援に携わりたい」と、自分の進む道を確信できました。中でも、世界で大きな影響力を持ち、スケール感のある事業にトライできる期待から日本赤十字社を志望しました。

大学では、勉強や部活の他に、本学の国際交流センター主催の海外派遣プログラムにも積極的に参加。特に、リーダーシップを育むサイパン研修と台湾研修では、次世代のリーダーを目指し自らの意見を持って具体策を導き出そうとする国内外の仲間と出会って、自身の成長への意欲が高まりました。これを機にこうした仲間にもっと出会って、自分を磨きたいと思い、他大学のリーダーシップに関する講義に参加するなど、大学生活が大きく変わりました。多くのことにトライできる学生時代の時間と環境を皆さんも有効活用してください。また、面接では「笑顔・元気・あいさつ」の3つは本当に大切。緊張しても、忘れず頑張ってください！

内定先

大阪市役所



理工学部 都市環境工学科
武田 優弥さん

大阪の湾岸部発展の 一端を担いたい

「一企業の利益より市民の利益を追求したい」との思いから、公務員を志望。大規模事業を多数展開するとともに、大阪・関西万博やIRIによる発展も期待されている大阪市の街づくりに魅力を感じました。3年次の8月に2週間のインターンシップに参加、4年次の5月に1次試験、6月の2次試験を経て合格に至りました。採用後は、大学の学びで得た実践的なスキルと知識を活かし、大阪・関西万博の開催地・夢洲の開発を通して、湾岸部発展の一端を担っていきたくです。また、南海トラフ巨大地震の津波対策である、防潮堤耐震化事業にも携わりたいです。

大変だったことは、やはり公務員試験の勉強です。私は1日当たりの時間より量を意識。テキストを3周するために必要な1日のページ数を割り出し、できない日のために余裕のある日には「勉強貯金」を作って計画的に取り組み、勉強時間のやりくりをしていました。公務員志望の人に伝えたいのが情報収集の重要性です。自治体により試験形式や内容が異なり、小論文や面接対策も違ってきます。自治体のHPなどを活用した綿密な準備が大切です。さらに、私は公務員試験の勉強や面接練習で学内の資格サポートセンターを活用しました。独学での合格実現はなかったと感じており、自分に合った勉強法を早く見つけることが合格のポイントだと思います。

内定先

大和ハウス工業 株式会社



外国語学部 外国語学科
中井 優里花さん

「継続は力なり」 最後までポジティブに

就活を始めた時点では、まだ志望する職業のイメージが固まっていませんでした。そこで、小売、建築、人材育成やIT系など、多様な業種の企業説明会に参加。その中で、主力事業のほかに多彩な事業や意外な取り組みを展開しているなど、広がりや独自性のある企業に興味を湧かせてきました。また、選考が進むにつれて下調べでは分からない、企業と自分の相性が実感できたことも発見でした。大和ハウス工業は、国内の住宅だけでなく、海外でも多彩な商品を扱うデベロッパーのため、「外国語学部で培った語学力を活かして、さまざまな地域の文化を体感し自分の世界を広げられるのではないかと考え、入社を志望しました。

私は、剣道を13年間続けていて、大学でも剣道部で活動していました。部活と就活の両立は大変でしたが、剣道の教え「継続は力なり」を実践できたことは、就職に際してもプラスになったと感じています。大学ではスペイン語を専攻していますが、就活で同じ分野の人が少なく、自分の強みとして存在感が発揮できたと思います。面接は、臆せず自分自身の言葉で考えを伝えることが大切。それで結果が伴わなくても落ち込まず、自分に合う企業に出会えることを信じて、ポジティブに就活を進めていってください。

内定先

株式会社 資生堂



理工学部 電気電子工学科
木村 紳太郎さん

インターンシップから チャンスをつかみ取る！

大学で学んだ「電気」という専門性をあえて異なる業界で活かしたい。同じ専門の人の中にいるのとは違った学びや成長があり、存在感を発揮できるのではないかと。そんな思いから、電気関連以外の企業にも視野を広げて就活を行いました。3年次の2月に、資生堂の1日インターンシップに参加。業務の一端を経験することで、企業文化や理念に触れ、「化粧品という美を通じて世界中の人々を幸せにする」事業に強く心惹かれました。この時の社員の方との出会いがきっかけとなって、後に人事の方にお会いできることに。そして、グループディスカッションを交えた一次面接、最終面接を経て、生産技術職として内定に至りました。インターンシップ以降の自己アピールと行動力が全ての始まりであり、決め手になったと感じています。

摂南大学は、自分の努力次第でいろんなことに挑戦を後押ししてくれる大学。私も専門の勉強一辺倒ではなく、充実した4年間を過ごすことができました。バドミントン部の活動では仲間と力を合わせて強豪チームへと成長を果たし、テーマパークでのアルバイトでは幅広い年代の方とのコミュニケーション力を磨くことができました。こうして得た人間力と専門性を活かし、資生堂の事業に貢献していきたいです。

保護者のための 教育懇談会

2018年度秋期教育懇談会(摂南大学後援会主催)を昨年10月から11月にかけて、本学会場(寝屋川・枚方)、学外8会場(福井・名張・難波・奈良・米子・広島・高松・福岡)で開催(左表参照)しました。各会場合わせて440組580人の保護者の皆さまにご参加いただきました。

今後も教育懇談会を通して保護者の方々と大学との架け橋となる活動を行ってまいります。

開催日程・会場

日程	会場
10/ 6(土)	本学【寝屋川】
10/13(土)	高松・広島
10/20(土)	本学【枚方】
10/27(土)	福岡
11/10(土)	奈良
11/11(日)	福井・米子
11/17(土)	名張
11/18(日)	難波



全体説明会(寝屋川キャンパス)

2018年度 秋期教育懇談会

教育懇談会とは

摂南大学後援会では、ご家庭と大学の連携の二つとして、学部学生の保護者および保証人を対象に教育懇談会を春と秋の年2回開催しています。

教育懇談会では、教員との個別懇談の機会を設けております。教員は事前にご子女と面談し、日頃の学修の状況などを把握したうえで懇談に臨んでいます。また、教育懇談会は、ご子女が在籍している同じ学部学科の「保護者同士の交流の場」としての意味も有しています。参加された保護者からは「同じ悩みを持った保護者と情報交換でき、大変参考になった」と感想が寄せられています。今抱えている問題や心配事、質問などがございましたら、ぜひ、この機会をご活用ください。



就職相談



全体説明会(学外会場)



自由懇談



個別懇談

福井

子どもが大学に入学し、自宅を離れて一人暮らしを始めた当初は心配ばかりの毎日でした。今回、福井会場では、経営学部の出席者が私一人にもかかわらず、担当の先生にお越しいただき、大変ありがたく思っております。先生から子どもの学生生活や学習態度、友人関係などのお話を聞けて充実した時間を過ごせました。また、福井から子どもを送り出した他の保護者の方とも話せる機会があり、同じ気持ちを共有できたことを、大変嬉しく思いました。大学では、たくさんの方にサポートをしていただき、感謝しています。子どもには、摂南大学での学生生活を通して、人生の目標をしっかりと見つけ、また人間として大きく成長してほしいと願っております。

高松

大学で開催された春の懇談会では、学んでいる環境や大学の雰囲気を知ることができました。今回、9月に成績表が送付されてきたこともあり、地元で開催された教育懇談会に参加することにしました。個別懇談では、担当の先生から今後のコース選択での注意点や必要なGPA(※)、不得意科目の学習サポート、大学での様子、就職のことについても詳しく説明していただきました。子ども、保護者が今押さえておくべきことをアドバイスしていただき、大変安堵いたしました。また、自由懇談では、先生方、後援会の方、他の学部の保護者の方々と和やかな雰囲気の中で有意義な時間を過ごすことができました。次回は同じ学科の保護者の方とも交流してみたいと思っております。

(※) Grade Point Average(特定の算出方法による成績評価値)

朱子

地方会場は、参加がしやすく、入学年度より毎回出席させていただいています。子どもも5年次になりましたので、大学生活にも慣れたのか、以前ほど連絡してこなくなりました。成人はしているものの、まだまだ未熟な点が多いので、心配になることもあります。大学での生活の様子を聞き、また、同じ思いの保護者の方とお話することができて、私どもにとっては「ひと安心できる場」となりました。就職に関する情報も大変参考になりました。これからも、子どもの成長を見守りながら、応援していきたいと思っています。



参加された保護者の皆さまのご感想

参加された皆さまからのご寄稿の一部を掲載しています。

名張

教育懇談会が地元の名張で開催されるということで、初めて参加させていただきました。大学入学と同時に一人暮らしを始め、アルバイトをするようになり、生活環境が一転し、大変だったことだらけだと思います。会場では、後援会役員の方に学生生活の様子を、先生には気になっていることや困っていることについて相談させていただきました。アドバイスをいただき、親としての不安が和らぎました。自由懇談では、ざっくばらんに会話させていただき、有意義な時間を過ごすことができました。これから実習や看護師国家試験など乗り越えていかなければならないことがたくさんありますが、悔いのない大学生活を送ってほしいと願っています。

難波

2年次から参加させていただき、今回が3回目の参加になります。教育懇談会は、子どもがお世話になっている先生とマンツーマンでお話ができる大変貴重な機会だと思います。子どもは尊敬できる先生に巡り会うことができ、充実した日々を過ごしているようです。その先生と直接お話する中で、ゼミの様子を聞き、意外な一面を知ることができて嬉しく思いました。また、自由懇談では同じ学部の異なる学年の保護者の方や先生、後援会の皆さまと子どもの日常の様子など話すことができ、和やかに歓談し、楽しいひとときを過ごすことができました。まだ参加したことがない保護者の方にも、ぜひ参加して体験していただきたいと心から思います。

〈本学HP 後援会ページ: <https://www.setsunan.ac.jp/family/kouenkai/education.html>〉

奨学金説明会日程

★ いずれかの日程に出席してください

	奨学金の種類	対象学部・研究科	年次	日時	場所
学部	日本学生支援機構奨学金 (貸与制)	理工学部・外国語学部	全年次	4月8日(月) 12:40~13:10	寝屋川キャンパス 551教室(5号館5階) 【所属学部の説明会に出席できない場合は 他学部の説明会に必ず出席してください】
		法学部・経営学部・経済学部		4月9日(火) 12:40~13:10	
		薬学部・看護学部		★ 4月5日(金)・8日(月) 12:40~13:10	
	学内一般奨学金 (給付制/ 出願資格は2年次以上)	理工学部・外国語学部・法学部・ 経営学部・経済学部	2~4年次	★ 4月10日(水)・11日(木) 12:40~13:10	寝屋川キャンパス 551教室(5号館5階)
		薬学部・看護学部	2~6年次	★ 4月9日(火)・10日(水) 12:40~13:10	枚方キャンパス 322教室(3号館2階)
大学院	日本学生支援機構奨学金 (貸与制)	理工学研究科・経済経営学研究科・ 法学研究科・国際言語文化研究科	全年次	4月1日(月) 15:10~15:40	寝屋川キャンパス 1122教室(11号館2階)
	学内奨学金 (給付制)	薬学研究科・看護学研究科		4月2日(火) 11:00~11:30	枚方キャンパス 432教室(4号館3階)

注1:説明会に出席しない方は、出願資格がありません。出席できない場合は、事前に学生課(枚方事務室)までご連絡ください。ただし、アルバイト等の理由は原則認めません。

注2:貸与制は、卒業後返還が必要です。

注3:摂南大学学生海外留学規定により留学中の学生は、ポータルサイトの案内を確認してください。

2019年度 入学宣誓式を 行います

～ 新入生に届けたい、
在学生からのメッセージ～

日時: 2019年4月3日(水) 14時～

場所: 大阪城ホール(大阪府中央区)



【内容】

ウェルカムメッセージ

在学生による「大学生活での活動」

ウェルカムステージ

課外活動団体による「ダンス・音楽パフォーマンス」

フィナーレ

在学生・教員から新入生への「タスキリレー」など

新入生歓迎行事は、

在学生による進行でお届けします

2018年度 学位記授与式

日時: 2019年3月22日(金) 11時～

場所: 寝屋川キャンパス 総合体育館



2019年度「All 摂南大学 Day」

日時: 2019年8月24日(土) 13時～【予定】

場所: 京セラドーム大阪(大阪府西区)

プロ野球「オリックス・バファローズ 対 北海道日本ハムファイターズ」戦を、摂南ファミリー(卒業生、在学生、受験生とそのご家族等)が集うホームカミングディ「All 摂南大学 Day」として開催します。詳細は7月頃、本学ホームページでお知らせします。



さ や け き

「さやけき」とは

「清けき」と書き、明るい、清々しい、清く澄んでいるなどの意味を表します。大学歌に「学风さやけき 摂南の」という詞があるとおり、本学の明るく、若さあふれる清々しいイメージを象徴する言葉です。

表紙の人



「2018年度摂南大学PBLプロジェクト最終報告会」において、【優秀賞】を受賞した2チームの代表メンバー

・写真左

「摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト」

左から、藤本明日望さん(生命科学科2年次)、廣重恵さん(同)、丸井徹哉さん(同3年次)

・写真右

「伝えよう、星の神秘と科学」

手前から、鍋島優夏さん(生命科学科3年次)、山口彪我さん(機械工学科3年次)、澄田航さん(生命科学科3年次)(本誌P2・3でも紹介しています)